

市長調整「公民館のふれあい会館化について」

2023年6月23日 午前9時05分から午前10時10分 キャンペラの間

市長 鈴木副市長

教育委員会:教育長 竹平部長 若林次長 細川課長 植田

市民部 :谷田部長 岡田補佐

<公民館のふれあい会館化について>

- 社会教育をどのように担保していくのか
- 便利・コスト面だけで行うのではない 行政改革面だけではなく
まちづくりにつなげていく
- 公民館を無くす・無くさないの議論ではなく、より良いものに変化させていく
地域が使いやすく、よりよい施設としていく
- ふれあい会館化する場合は、持続可能にするためにも、施設管理にかかる一定
の人件費を見込んだ委託費を払う必要があるのでは
財源、権限、仕事を地域へ
- 拙速ではなく理論を練る必要があるが、時間を掛ければいいものでもない
丁寧かつテンポの良い議論をするように

<社会教育・生涯学習について>

- 生涯学習は重要なものであり、削るものではない
- 国の指針等からトレンド(現状と課題)を確認し、市としてアップデートが必要 社
会の変容についていく
- 奈良市のこれからの社会教育をどうするのか、きちんとしたロジックをもつ必要が
ある
- 単なる趣味の活動ではなく、本来の社会教育を改めて考える必要有

<生涯学習財団について>

- 生涯学習財団の職員は、現状、施設の貸館業務がメインとなり職員の専門性が
活かせていない
ふれあい会館化となることで、貸館業務は地域の方が行い、財団職員は専門性
に集中し、地域課題(福祉・子ども・地域)の解決に取り組む
もっと地域を知って、関わりを持ち地域を育てるプログラムを進めていく
- 財団職員(社会教育主事)へのテコ入れが必要
学びや新しい時代に対する職員のアップデートも必要
- 市と生涯学習財団が一緒になって新しい時代(社会教育)を考えていく必要があ
る。

市長・副市長・教育長の判断ができる立場の人を交えて、生涯学習財団職員と、幅広く発展的な理論・議論を行う場を設ける(7、8月に集中議論を)

<その他>

➤地域で決める学校予算・放課後子ども教室・コムスク 整理が必要

➤ポイント制度について

子どもたちが地域のお手伝いをするとポイントをもらえる等、達成感を感じるようなことはどうか・・・